

この人に会いました

オリンピック・ワールドカップでの好成績おめでとうございます。皆さんの活躍はTV、ラジオ、新聞などで連日拝見させていただきま。今回の皆様の活躍は湯沢のみならず、日本の大きな自慢です。今回事話をお聞かせいただきたく思いますのでよろしくお願いたします。



皆川賢太郎選手

・オリンピック・ワールドカップと激しいレースを終わられて故郷湯沢に帰られた今のお気持ちは？

実際のところ、ほっとしているところなんです。それに今年は本当に雪が多いですね。先週も苗場で滑りましたが、レースとは違って楽しく滑っています。
・2002年に十字韌帯断裂という大きな怪我をされ、それを克服しての見事な復活ですが、その時考えたこと、心の支えになつたことは何ですか。

この年はいろいろな事があって悩み落ち込んでいた年でしたが、最終的にあのような大怪我となつてしまいました。しかし、自分ももう一度競技に戻りたいという強い意志もありましたし、以前親父も同じような怪我をしましたが1年目はしようがないという気持ちもありましたが、2年目の方が痛みが出たりしてシヨックが大きかったですね。でもお陰様でこうして競技生活を続けられて喜んでます。
・今回アルペン競技4位入賞ですが、あちこちと世界を転

戦するなかで「スキー環境」という点で日本と世界の差を感じることがあります。

環境という点では確かに1年を通して雪のある南半球やヨーロッパみたいな生活にスキーが密着している環境ではないのでその点イメージ的にハンディがあるかもしれません。しかし、僕らもそうした差を無くすためにもオフは雪のあるところで常にトレーニングをしています。

・最後にこれからトップスキーヤーを目指す青少年と湯沢町の皆さんに一言ありましたら。

これから僕らがもっと頑張つて世界の頂点に立つことが日本人でも世界のトッププレイヤーになれるというイメージにつながり、青少年の大きな励みになると思います。そのために頑張ります。また、こうして湯沢に帰ってきてあちこちで皆川賢太郎のポスターを見るたび町民の皆さんの温かい応援を肌で感じ、心から感激していると同時に、これからも頑張りますのでよろしくお願いたします。



佐々木 明選手

・今や日本アルペン界の革命児といわれ、世界のライバル達に

も「佐々木は世界のトップを狙える」と言わしめる佐々木選手です。88年ワールドカップスイス大会第2位から始まって今シーズン大会第7戦オーストリア大会2位、志賀高原大会2位、そしてワールドカップSL総合ランキングでも第7位と、今や日本が世界に誇るトッププレイヤーであることは間違いありません。トッププレイヤーとして佐々木選手の今後の抱負は。

確かに2位というところで多くの皆さんからお褒めの言葉をいただいておりますが、僕は2位はある限り決して満足していません。これからもその上を目指して頑張るつもりです。

・アルペンスキーは日本ではまだメジャーとは言いがたい部分があると思うのですが、ヨーロッパでは大人気のスポーツです。佐々木選手はそのヨーロッパで絶大な人気を誇っていると聞いていますが、スキー環境という点でハンディキャップなど感じることがありますか。

まったくありません。日本でも10月下旬から5月の連休まで滑れる素晴らしいスキー場がいっぱいあり、環境的には充分だと思えます。雪質という点では確かにヨーロッパとは違いがありますが、雪の上のスポーツは何処で滑っても変わらないわけですから僕はハンディなど感じたことはありません。ただ、現在ヨーロッパに家を持っていてそこを拠点に活動していますが、食事が合わないのしよつちゅう下痢に悩まされています。日本に帰ってくると途端に治ります。やっぱり日本食が最高です。

・明日を目指す青少年へ一言。スキーを楽しむことがまず第一ですね。それとレースなんかで負けるときはあります。そんな時悩んでばかりいてはダメです。大切なのは次にどうしたら勝てるだろう、どうしたら早いタイムを出せるだろうと、次のステップに気持ちを入れ替えること、技術的なことばかりでなく、前向きな気持ちを持つことが大切だと思います。

・皆川選手は佐々木選手の北照高時代の先輩と聞いていますが、佐々木選手にとって皆川選手は？

賢太郎さんと僕、それと同じ北海道出身のアルビレックスの吉岡大輔選手の3人はサロモンチームでいつも一緒に滑っていました。賢太郎さんは僕より4つ年上で高校も勿論先輩ですが、早くからナショナルチームで活躍していたので僕が世界にスミスに入ったで行けたのも賢太郎さんがいたお陰だと思っています。良き先輩、良き仲間、良きライバルです。

・最後に今後のご予定は？

僕にとってスキーは最高の趣味であり遊びなんです。だから滑らない日が続くと落ち着いていられません。これからトレーニングと遊びをかねてアラスカに行く予定を立てています。

・インタビュを終えて

お忙しい時間の中でのインタビューでしたが、お二人とも確固たる信念と熱き情熱をもって近いうちに感服しました。必ず近いうちに、世界の頂点に立つことを確信した次第です。皆川・佐々木両選手の今後の活躍をお祈りいたします。

編集後記

道端のフキノトウが可憐な花を見せはじめ、ようやく春の訪れを感じる季節になりました。

1年の予算を審議する3月定例会も7日から始まり、一般会計・特別会計・事業会計など9会計すべてが可決されました。

今年50年ぶりの大雪の年となり、連日のように首都圏で大雪情報が発せられ、それによる風評被害も対前年比減の大きな要因になったように思われます。そんな中でも湯沢町にとっての明るい話題はトリノ五輪での皆川・佐々木両アルペンスキー選手の大活躍でした。連日湯沢町の名前が日本全国に報道され、スキー王国湯沢の知名度が一躍クローズアップされたことは喜ばしいことです。今号では両選手のお話を聞かせていただき、両選手のこれからの活躍を心からお祈りいたします。

春到来といってもまだまだ残雪の多い今年の湯沢、皆様にはくれぐれもご自愛の程お祈り申し上げます。

広報委員長 柿崎直治

編集

湯沢町議会
広報対策特別委員会

広報委員会／柿崎直治
師田 保